

ひるがみ

第 70 号

平成 29 年 2 月 13 日

発行

障害者支援施設
阿智温泉療護園

社会福祉法人 下伊那社会福祉会

〒395-0304

長野県下伊那郡阿智村智里昼神

TEL 0265-43-3172 FAX 0265-43-3173

ホームページ

<http://achion.com/ryougo/>

本年の事業から

園長 福澤 茂雄



二十八年に行った事業を紹介させていただきます。

*業務日誌及びケース記録等のシステム化

遅ればせながら当園もやっとパソコン入力により介護・看護の記録を共有することができるとなりました。成果は、紙の枚数が大幅に減ったこと、ケース記録に費やす時間が削減できたこと、

きる方がいなくなり、温泉には機械浴は使えないため、ここ数年は職員が抱きかかえて湯船に入っていたが、限界にきたため温泉入浴を断念しました。

利用者さん全体の状態を勘案しながら浴室全体の改修を図っていきたくと思っています。

*シンボルマークとロゴタイプの更新

昨年度当園のシンボルマークのプロトタイプが完成したが、ロゴタイプと合わせたシンボルマークとなっていないかったため地元のプロのデザイナーに依頼し、カラー指定、ロゴタイプも指定したマニュアルを作成し、それに基づき看板と制服を新調しました。イメージが少しアップしたかなと思っています。

早朝の寒い中

ありがとうございました

十一月の肌寒い早朝、西部地区特定郵便局長会約二十名の皆様が、敷地内の草刈や側溝の掃除等環境整備をして下さいました。職員一同大変感謝しております。

また御寄付のお話も頂き、利用者さんから呼ばれた時に職員が使うハンディナーズの更新時期が近づいて来ていたため、そちらを寄贈して頂きました。ありがとうございました。



阿智療護園本日の観劇は“一人芝居”... 一人でできるの？

お芝居は、本来複数の人からなる劇であるのが我々のイメージです。“一人”という一見風変わりなスタイルはどんな表現がされるのでし

一人芝居



ようか。演劇者は、阿智村で地域おこし協力隊として活動されている二川舞香さん。「アイヌ民族のお話」というテーマで繰り広げられました。

—いぎ、観劇の時間—
まさに圧巻でした。

間近で見ると迫力の演技に思わず息をのむ利用者さんたち。登場人物になりきり感情のこもったセリフは素晴

リョウゴ輪ピック

今年はりオ五輪が開催され、選手の皆さんの活躍に力をもらいました。そこで運動会もリョウゴ輪ピックin療護園と題し、五つの競技に汗を流しました。

園長とじゃんけん勝負で緊張した心と体をほぐした後、利用者さ

んと職員のパアによる大玉運び。職員手作りの亀の甲羅を身に付けた職員と、うさぎの耳を付けた利用者さんがペアを組んでのリレーで、物語に出てくるうさぎと亀とは違っていて仲良く歩み、バトンを渡していました。待ジャパンも驚きのバトンリレーでした。



職員力作“カメの甲羅”

どの競技も闘志満々の白熱した戦いとなりました。次の東京オリピック目指してメダリスト誕生なるか!?

(E・K)

芸術の秋



十二月に「芸術の秋」を主題としたレクリエーションを、男性職員とYさんと共同で行わせていただきました。内容は「お絵かき伝言ゲーム」と「絵しりとり」です。

ました。職員の描いた絵を見て「これはあの絵だと思う」「自分はこの絵だと思う」と話し合いながら、笑顔で答えてくださいました。

職員が描いた絵はどれも個性があり、利用者の方も職員も、目で見ても楽しむことができたレクリエーションとなりました。

この場をお借りしまして、参加して頂いた利用者の皆様、協力して頂いた職員の皆さんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(M・H)

伝言ゲームは職員が参加し、利用者さんには見ていただきました。お題から、職員それぞれの受け取り方で徐々に変わっていく絵を見て、利用者さんは「お題とあってる」「違う、違う」と声を出して楽しまれました。

伝言ゲームで盛り上がった次に行なった絵しりとりは、利用者さんにも参加していただき



絵しりとりゲーム!!

サンタ→ダンス→スイカ→カメ

天皇陛下ご来村

昨年十一月十六日から十八日にかけて天皇皇后両陛下がご来村されました。ご宿泊場所が当施設のすぐそばであったため、三回に分けてお出迎え、お見送りをしました。

警備の県警の皆さんの計らいで、特別にお出迎え場所を設置していただきましたので通行車両の心配をすることなく、安心してお出



迎えをすることができました。

三十分前に一台、十五分前に一台、三分前に一台、一分前に一台それぞれパトカーが通過し、その後先導車に続いて御料車がお通りになり後続車両が十三台も続きました。

新聞社の取材も受けましたが、記事には載りませんでした。

利用者の皆さんも日の丸の旗を振りお出迎えすることができ大変感激していました。警備にあたって何かとご配慮いただいた長野県警察の皆さんに誌面を借りて感謝申し上げます。(園長 福澤)

お出迎えした利用者さんからも沢山感激の聲が聞かれました。その一部を紹介します。

警察がたくさん居てびっくりした (C・I)

天皇陛下と美智子様顔を見る事が出来て良かった (S・U)

手を振ったりすることが出来て良かった (C・K)

冥土の土産になった (H・K)

美智子様がとても綺麗で素敵だった (K・S)

すごく近くで見ることが出来てとても感動した (T・K)

また機会があれば見たい (C・I)

良い場所で見ることが出来て良かった (K・K)



忘年会

十二月二十一日、療護園で暮らす利用者さんの忘年会が行われました。



選抜メンバーによる華麗なダンスを披露

今年度は、みのもんたと黒柳徹子に扮する司会で紅白歌合戦が行われました。恋ダンスで始まり、厨房職員による「恋のバカンス」、男性職員による山本リンダやAKB48、五人の利用者さんも参加した「すごい男の歌」、「高校三年生」ではカニューレを付けた利用者さんが学ランを着、スピーチバルブを付けて歌ってくれました。その他、「ヤングマン」「マツケンサンバ」「ズンドコ節」「UFO」「いい湯だな」等全部で十七曲。最後は園長の指揮で「蛍の光」を全員で歌い幕を閉じました。どの曲も利用者さんにとって馴染みのある曲ばかりで、皆さんとても嬉しそうでした。

利用者さんの障がいには皆一人ひとり違っています。それぞれがそれぞれの表現の仕方を楽しんでおられる様子がみられました。歌と共に昔を思い出して、懐かしむことができました。シャンパンの乾杯で



「一目見て、療護園だと分かるマークがあったら良いな」という構想から二年余りです。ようやくシンボルマークが完成しました。マークについて少し説明致しますと、当園は昼神温泉郷の中にあり、温

始まった第二部は昼食会。メニューはお寿司、ローストビーフ、ポテトサラダ、フルーツポンチ。飲み物はアルコールやソフトドリンクがあり、お代わり自由。皆さんいつもの倍以上の時間をかけ、「美味しい、美味しい。」と堪能されていました。

いつも体のあちこちが痛くて、辛くて、思う様に動けないし、言葉もスムーズに出ない、毎日毎日我慢の連続：：そんな利用者さんから「最高」「涙が出るほど嬉しかった。」「お疲れ様」等の嬉しい言葉を頂きました。

(M・T)



おいしい料理をたくさんいただきました

た。更に、阿智村は花桃の里として有名なので、花桃をイメージしてハートを五枚重ねて下さいました。このハートは、利用者様、ご家族、職員、施設、地域を象徴しています。皆様に支えられ、愛される療護園になれるようシンボルマークと共に歩んでいきたいと思

(H・K)

知的障がい者の支援について

飯伊圏域障がい者総合支援センター所長 松澤様を講師に迎え、知的障がいの方の支援についての研修会が行われました。身体障がいの方の支援については園内での研修を受けていましたが、知的障がいの方について特化して学ぶのは初めての機会でした。普段の業務に当たっている中では知ることが出来ない障がい福祉の制度の動向をはじめ、知的障がいの特徴や要因、有効なコミュニケーション方法など丁寧に教えていただきました。中でも「知的障がいの方にこんなことを言ってもわかるのか？という相談をよく受けますが、伝え方を工夫すればちやんと理解してもらえ

ます。」というお話が印象的でした。これは介護の仕事すべてにおいていえる事だと思えます。「きっとわからない。」「きっとできない。」「といったマイナスの決めつけではなく「どうしたら伝わるか。」「こうしてみたらできるのでは。」「という考え方でよりよいケアを提供できるようにになりたいと思います。」 (S・M)

法人三施設職員研修会

十二月二日、三施設役員研修に出席しました。長野県片障がい福祉幹 樋口忠幸氏に「児童・障がい者の権利擁護と虐待防止」について講演していただきました。

子どもを単に保護・養育の対象としてとら

えるのではなく、「その人格と主体性を尊重し、調和のとれた成長発達を援助していくべきである」

「児童の自立の支援には、自己決定と自己責任の機会を持てるようにすることが重要」

「親が一生懸命であっても、子ども側にとつて有害な行為であれば虐待である」

「障がいのある人を保護の対象としてではなく、自分らしく生きる権利の主体としてとらえ、障がいのある人とならない人が等しく享受できるような社会を変えていく(生活のしづらさの原因となる社会的障壁をなくす)」

「誰もが住み慣れた地域社会で共生して生きていける社会が本来のあるべき姿である」

等、わかりやすい言葉

で、どこに視点を置き、どう考えるか教えてい

介護用品最新メカ紹介③

低床ベッド

今年度より超低床ベッドを導入しました。今回当園で導入されたものは以前よりさらに低くなっており、より安心で安全に利用できます。

すどブザーを鳴らしながら低速で下がる機能もついている為、安全に最低位まで下げることができます。

ただき、とても勉強になりました。(Y・S)

このベッドは最低位の状態で床からの高さが十五センチになっており、ベッドから方の一の転落時、衝撃を緩和できるため、ケガのリスクを最小限に抑えられます。さらに、ベッドの高さを下げる時に足や周囲の物を挟まないように、ある一定の高さでブザーを鳴らして一旦停止します。再度下げるボタンを押

また、立位のとれない利用者さんでも床にカーペットを敷き、手足移動すれば転倒の不安を感じずに自力でベッドへ移動することができます。床に布団を敷いている場合と比較して、ほとんど高さが変わらないため、自宅で畳に布団を敷いて寝ていた利用者さんは自宅にいる時と同じようにゆったりと過ごしていただけています。

(Y・K)



阿智村駅伝大会

「何か新しい事をやってみる」療護園にとつてそれは駅伝大会でした。

そしてその挑戦が大きな実を結んだことを、駅伝メンバー一同誇らしく感じております。

結果から報告すると、六十位チーム中五十三位と、後ろから数えたほうが早い結果でした。が、団結した療護園



寒い中皆で大声援を送ります

はこれまでに見ない駅伝ムードでした。利用者さんが応援してくれたこと、それに応える選手が切磋琢磨し練習できたこと、駅伝というイベントがあったおかげで話題のネタが増え盛り上がったこと、振り返ればすべてが希望のカタチだったと感じます。一回目にしては大成功だったと思います。

しかし、私たちはこのような美談で終わらせるつもりはありません。まだまだチームは発展途上です。来年はさらなる高みを目指してたくさんの坂を乗り越えていきたいと思えます。

十一月下旬、寒さを感じるこの季節を駅伝の季節と呼ばせしめるごとく全力で駆け抜けてみせます。(N・Y)

初釜



一月三十日「初釜」が行われた。朝から何人も利用者の方から「今日は初釜」と声を掛けられ、多くの方が楽しみにしている様子が伺われた。毎年この時期の恒例になっている。午後二時から始まった初釜は、和楽器の音色、お香の香りが漂う中、福澤園長が準備からお茶点で迄全てされる。初めに園長より「今年で三年目、お菓子は特別に京都より取り寄せたものです。しっかり楽しんで召し上がってください。」との挨拶があり、立てられたお茶を利用者の皆さんは堪能された。「美味しい、甘い、甘い」等ニコニコと楽しいひと時を過ごされ、中には召し上がった後でもその場の余韻に浸るようにならばらく食堂で過ごされる方もおられました。(S・H)



利用者さんがゆっくりと楽しめるようにたくさんのお茶碗を用意していただきました

現況報告

平成二十九年

二月十三日現在

利用者 四十八名

職員 四十四名

(非常勤職員を含む)

障害支援区分別利用者数

区分六 四十七名
区分三 一名

編集後記

おかげさまで本誌は今号で第七十号を迎えることができました。すべては読者の皆さまと寄稿者の皆さまのご支援とご協力のたまものです。

今号は機関誌のタイトルにシンボルマークを入れ、ページ数もページの拡大版といたしました。中身のほうもより一層の充実を図っていきますので、今後とも本誌をどうぞよろしくお願いいたします。

